

S-face

SFC makes the future through researches

コミュニケーションは 異文化との“協働”

長谷部 葉子

VOL.

001 /100

2015.Mar 発行
和の色：若苗色



“気づき”がうまれる 相互理解の環境作り

私の専門は、英語教育を基盤とした異言語・異文化コミュニケーションであり、そのカリキュラムデザインと教授法を研究しています。一般的に、異文化コミュニケーションというと、イコール外国との交流と考えられがちです。しかし、たとえば同じ日本人同士であっても、1つの言葉から喚起されるイメージは、その言葉を受ける人の多様な背景からくる理解によって、解釈がまったく異なるということがよくあります。にもかかわらず、同じ言語あるいは同じ解釈だから理解できるという誤解から、いつの間にか大きなコミュニケーションギャップが生じてしまうのです。

このような“気づき”が生まれるような異言語・異文化コミュニケーションのための環境作りが、私の専門領域です。どのようなステップを踏み、どのような環境を整えながら、どのようなプログラムを組んでいくのか。こうしたカリキュラムデザインを構築し、短期間でできるだけ自然に、持続可能な共通理解が生まれる環境を作り、そこに必要な学習や言語の教授法も考案していく。プロジェクトを通してそれらを実践しています。

ボランティアではなく 異文化の関係性の構築

私たちが進めている異言語・異文化コミュニケーションの、最も典型的な例が「コンゴAcadex小学校プロジェクト」です。これはコンゴ民主共和国出身で、本学英語セクション講師(非常勤)のサイモン・ベデロ氏の、「教育を通じて母国に恩返しをしたい」という思いから、2008年に発足したものです。コンゴの首都キンシャサ市郊外のキンボンド地区で、小学校を建設・運営をしています。

本プロジェクトについて、ボランティア活動というような理解をされることが時折ありますが、これは純粋に異言語・異文化コミュニケーションの研究であり、関係性構築の実践、そして日本とアフリカの将来を見据えた双方向な協働だと考えています。プロジェクト開始以来、学校建設のための建築分野、指導カリキュラム構築と実践のための教育分野、衛生教育や生徒の保健向上のための医療分野、この3つの領域で協働しながら共同研究プロジェクトを進めてきました。

現在、ACADEX小学校には約240名の生徒が在籍しています。日本とコンゴ双方の知恵を織り交ぜ、安定した学校運営、質の高い教育内容を提供し、これからのコンゴの教育環境の模範となる、持続可能なモデル学校となるべく、さらにプロジェクトを推進させていきます。

コミュニケーションが持続可能な 共通理解を作り出す

日本から遠く離れたアフリカのコンゴ民主共和国で、ゼロから小学校を作り、現地で初等教育のモデルを構築。

国内の離島では、長期にわたって現地に入り、島ならではの豊かさを活かして持続可能な協働を探ります。

これらはいずれもボランティアではなく、異言語・異文化コミュニケーションの研究と実践。

異言語・異文化のコラボレーション(協働)により、持続可能な関係性モデルを構築するのが長谷部葉子准教授の研究活動です。

コンゴAcadex 小学校プロジェクト



異文化間交流

中等教育への橋渡しはもちろん、初等教育のみで社会に出る生徒たちのために、チョーク作りや被服制作など、卒業後の職業に繋がる実習教育も積極的に導入している。

Medicine 医療



保健衛生調査

ACADEX小学校では、慶應義塾大学医学部・看護医療学部合同のアフリカ医療研究会と協働し、健康診断など生徒の保健衛生面にも配慮した関係性構築を進めている。



Profile

慶應義塾大学環境情報学部准教授。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了。専門は英語教材、教授法、カリキュラムデザイン、異言語・異文化間コミュニケーション。

Architecture 建築



小学校建設

小学校の建設では、小林博人研究会の建築チームと協働。日本サイドが建物の設計などを担当し、現地の建設会社が施工する協働作業により校舎を作り上げていった。

研究者の人間性が “現場”で磨かれる

人口約130人の離島である鹿児島県の口永良部島で、雇用創出や交流人口の増加などを目指した取り組みを、島の皆さんや行政と協働しながら行っているのが、「口永良部島プロジェクト」です。その趣旨の本質は、コンゴAcadex小学校プロジェクトと同様、離島と都市部という、ある種の異言語・異文化を結び、協働することで相互理解を深め、成果を地域に還元していこうというものです。

2012年からは教育研修ビジネスモデル構築に関する研究の一環として、高校生を対象とした教育研修を開始しました。普段は都会で生活している高校生を島に招き入れ、島の人々と生活を共にすることで、島の価値の見直しや、持続可能な支援のあり方を、実践を通じて検証しています。プロジェクトメンバーの何人かは、自身も長期間、島で生活をしながら、より良い異文化コミュニケーションを実現すべく活動を続けています。

私たちの研究は、フィールドワークが中心であり、“現場を持つ”ということが鉄則です。その中で学生たちには、あらかじめ描いた結果を追認するような活動ではなく、人と人とが向かい合い、命を削るような真摯な気持ちでプロジェクトに携わってほしいですね。その経験は社会に出たときに、必ず人間の芯を形成する大きな力になるでしょう。

詳しくはWebサイトへ

詳細インタビューや動画も
ご覧いただけます

S-face

検索



慶應義塾大学SFC研究所

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当

〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤5322

Tel: 0466-49-3436 (ダイヤルイン)

E-mail: info-kri@sfc.keio.ac.jp